

2022 年 7 月 15 日

国土交通大臣 齊藤 鉄夫様
熊本県知事 蒲島 郁夫様

代表連絡先（賛同団体は末尾掲載）

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

代表 中島 康

〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13

TEL:090-2505-3880

球磨川水系河川整備計画原案に関する意見書集計結果と取りまとめ結果に 基づく計画再作成を求める申し入れ書

球磨川水系河川整備計画原案（以下原案）に関して、全国から提出された 4 5 5 通の意見が公開されました。私たちは、この意見の一つ一つを確認し、ダムへの賛否やその理由を集計しました。

それによりますと、重複しているものを除いた意見数 439 件のうち、313 件がダム反対の意見でした（全体に占める比率は 71.3%）。その内、球磨川流域からの意見は 203 件であり、ダム反対の意見の約 3 分の 2 を占めます。これらダム反対の意見においては整備計画原案の根本的な問題を指摘するものが多数あります。流水型ダムの環境への影響を懸念する声、ダムの治水効果はないとする意見、ダムの緊急放流の危険性を指摘する意見などです。

出された意見の取り扱いについて、例えば国交省は、これらの意見を要点に分割し、要点を意見の要旨として整理し要旨毎に意見に対する取り組み状況と考え方、整備計画への反映等を整理したとしています。これらの結果を見ますと、流水型ダムをとってみても、流水型ダムは要らない、流水型ダムは環境を守れない、流水型ダムは水質を悪化させる、穴あきダムの穴が詰まる、緊急放流の危険性をどうするのかというような河川管理者にとって都合の悪い意見に対してはまともな説明や具体的な対応策などは示されていません。

これでは、河川整備計画への住民意見の反映を謳った河川法を精神を蔑ろにするものとしか言いようがありません。多数の反対意見に対して、説明責任も果たさずに整備計画策定を強行しようとするなら、住民の支持のない計画は正当性など持ちようがなく、その河川整備事業は早晩、行き詰ることとなります。

つきましては、一昨年球磨川豪雨災害を住民と共に、改めて検証し直し、河川整備計画を住民と共に一から作り直すよう申し入れます。

以上

*2 枚目以降に、流水型ダムについての意見の要旨、具体的な意見（当会選択・要約）、取り組み状況と考え方（当会要約）、整備計画への反映（当会要約）、当会コメントを記述。

令和4年度第1回球磨川水系学識者懇談会説明資料 参考資料4「関係住民への意見聴取結果と意見に対する取組状況と考え方及び整備計画への反映等について【全体一覧表】(国)」(2022年6月24日 国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所、http://www.qsr.mlit.go.jp/yatusiro/site_files/file/bousai/gouukensho/gakusikikon/220624sankoushiryou4.pdf)の「論点⑤流水型ダム」(p42-p78)の意見の要旨、取組み状況と考え方(当会要約)、整備計画への反映(当会要約)と当会コメント

ページ番号	意見の要旨	具体的な意見 (当会选择・要約)	取組み状況と考え方 (当会要約)	整備計画への反映 (当会要約)	当会コメント
42-46	環境への影響について(全般)	流水型ダムは環境を保全できない	環境への影響の最小化を目指す。環境保全措置や配慮事項について検討し、必要な対策を実施。環境影響評価手続きを進める。	環境への影響の最小化を目指す。必要な対策を講じ、環境保全を図る(供用前)	検討し、必要な対策を実施すると述べているだけで、環境保全を担保できるかどうか分からない。
47	環境全般への影響について(土砂止め)	流水型ダムに土砂止めダムはつくるのかダムは川が死んで下流の海も死ぬ。	同上	ダムの放流設備等の構造や試験湛水方法、運用方法等を検討	同上
48	ダム完成後の環境保全について	流水型ダム完成の後の環境保全、汚泥やごみ、堆積土砂対策をどうするのか	同上	同上	同上
49	濁水発生に対する懸念	流水型ダムは水質を悪化させるのはで	流水型ダムは流入水と同じ水質、	環境への影響の最小化を目指す。必	なぜ「流水型ダムは流入水と同じ水質、水流を維持しやす

		は。水が濁るのでは。	水流を維持しやすい	要な対策を講じ、環境保全を図る（供用前）	い」のかが分からない。
50	濁水発生に対する懸念（他ダム事例）	最上小国川ダムでは濁水が発生している	同上	同上	なぜ最上小国川ダムでは濁水が発生し、川辺川ダムは最上小国川ダムとどう違うのか述べられていないので、川辺川ダムで濁水が発生しないのかが分からない
51	濁水発生に対する懸念（保全措置）	具体的な水質維持、向上方法が示されていない	ダムの放流設備等の構造や試験湛水方法、運用方法等を検討	同上	濁水対策の検討だけで具体策は示されていない
52	ダム下流への供給土砂の変化への懸念	朴ノ木ダムの例から下流への砂礫の供給が無くなる	同上	同上	朴ノ木ダムでは下流への砂礫の供給が何故ないのか説明がなく、対応出来るのかは不明
53	湛水地内の堆砂について	流水型ダムは堆砂問題は免れない	貯水池に堆積する土砂の量を軽減することは可能	同上	具体策が無く、対応できるのかが不明
54	洪水調節による攪乱頻度の変化に伴う影響への懸念	流水型ダムが樹木の繁茂抑制作用を奪うのでは	ダムの構造等の技術的な検討を行う	同上	
55	洪水調節による湛水地への影響への懸念	10年に一回、洪水をため込むことで湛水域、河川	ダムの放流設備等の構造や試験湛水方法、運	同上	具体策が検討されておらず、対応できるのかが不明

		に悪影響を与える	用方法等を検討		
56	魚類の移動など連続性の確保に対する懸念	流水型ダムを魚類は遡上できない	貯留型ダムと比べて連続性が確保しやすい	同上	貯留型ダムと比較することで意見をはぐらかしている。具多策が提示されていない
57	九十九瀬洞への影響への懸念	九十九瀬洞を保全すべき	一時的に湛水する可能性あり。生息・繁殖環境に変化が生じる可能性	同上	一時的に湛水したら、九十九瀬洞の生息・繁殖環境は絶滅する。対策を示さないのはおかしい。示せないなら計画は中止すべき。
58	クマタカについて	ダム建設予定地の原石山周辺はクマタカの繁殖もままならない	環境アセスを実施	同上	何も対策が述べられていない
59	工事実施に伴う大気質への影響の懸念	流水型ダム建設でCO2、排ガスが発生する	大気を測定調査する	同上	測定はするとしてもCO2や排ガスをどうやって抑制するかが分からない
60	法と同等の環境影響評価の実施について	法アセスを実施すべき	法アセスと同等の環境影響評価を実施する	同左	法と同等というなら正々堂々と法アセスを何故実施しないのか
61	試験湛水について	試験湛水についての必要な期間は？	一定期間を要する	同上	
62	土砂や流木等への影響の懸念	流水型ダムの穴が土砂や流木で塞がり、危険な状態になる	閉塞しないように必要な対策を実施する	ダムの構造や関連施設の設計にあたっては流入する土砂や流木等によりダムとし	どのような対策をとるのが具体的ではなく実現可能かどうか不明

				ての機能を損なうことが無いよう留意する	
63	流水型ダムの構造について	流水型ダムの穴の大きさやゲートの形状の記述を求める	構造の詳細は現在検討中。今後示す	同左	詳細も分からずに洪水が起こった時の影響や環境への影響をどう評価するのか
63	流水型ダムの予定地周辺の地質について	地質のリスクが検討されていない	現在、地盤の安定性、透水性の調査検討を行っている		安全性も確認しないでなぜダムを計画に入れるのか
64-66	緊急放流に対する懸念について	ダムの緊急放流の危険性が高まっている	緊急放流時も「ダムがない場合の流量」よりも多く放流する操作は行いません	「異常洪水時防災操作」を実施する場合があります	緊急放流時、既にダム下流では支流の流れ込みによる水位増加を無視している。緊急放流の危険性を無視している。
67-69	流水型ダムの整備についての意見	流水型ダムの建設に反対である	球磨川の河川整備には流水型ダムが必要	流水型ダムの整備を記載	国交省のお手盛りの比較検討によって流水型ダムが最適と導き出されている。何の正当性もない結論。
69	流水型ダムの整備についての意見（治水と環境の両立）	流水型ダムでは命も環境も守れない	ダムによる洪水調節は「氾濫発生リスク」「避難時間の確保」「氾濫場所での氾濫被害の軽減」の効果があると考えられ	同上	同上。特に流量の低減については、川辺川ダム上流で雨量やダム建設予定地での流量計算等への疑問に真摯に答えようとしていない。

			る。人吉地点のピーク流量も3000m ³ /s 低減できる		
70	流水型ダムの効果について	川辺川ダムの効果の算出根拠についての説明が必要	同上	同上	同上
70	流水型ダムの効果について(支川への効果(整備計画))	河川整備計画では、流水型ダムで何m ³ /s 洪水調節が可能なのか	川辺川ダムを含む洪水調節施設で3700m ³ /s 流量を提言	同上	同上
71	流水型ダムの効果について(支川への効果)	ダムでは支川の氾濫は防げない	山田川や万江川の氾濫は本線からのバックウォーター現象。ダムの整備により支川の氾濫は防げた。	同上	今回の氾濫は、山田川や万江川の源流域の降雨による氾濫である。川辺川上流の降雨量は大したものではなく、仮にダムがあったとしても本川の水位低下には殆ど影響なかったものと思われる。
71	流水型ダムの効果について(気候変動・降雨分布)	ダムはどこに降るかわからない雨に対処できない。むしろ放流で被害を大きくする。	令和2年7月降雨と同程度の洪水に対して流水型ダム、河道掘削、遊水地を合わせて実施することで人吉で本線の水位が堤防天端を超えなくなることを推計	同上	同上

72	施設能力を上回る洪水発生時の懸念	ダムで自然を制御できるとは思わない	ダムや遊水地などの洪水調節施設の整備を行い河川の中で洪水を安全に流加させることが必要	同上	同上
73	流水型ダムのデメリットについて	流水型ダムのデメリットも説明すべきである	流水型ダムは貯留型ダムと比べる影響は軽減または生じないと考えられる。	環境への影響の最小化を目指す。必要な対策を講じ、環境保全を図る（供用前）	貯留型ダムとの比較は無意味。流水型ダムのデメリットを述べようとしするのは説明責任を果たしたことにならない。
74	五木村・相良村の振興について	五木村の振興を推進してほしい	国・県・村が一体となって振興への取り組みを推進する	そのように整備計画に記載	五木村、相良村の振興はダムと切り離して、ダム計画を中止した上で、ダムの建設費用を両村の振興費用に充てるべき。
75	水没予定地内の施設への影響への懸念	流水型ダムにより溪流ヴィラや五木源パークが水没するが許されるのか	国・県・五木村が検討する	同上	ダムによらない地域振興を目指してきた五木村に対して、極めて無責任。これまで川辺川ダム計画で五木村を翻弄してきた反省の上に立ち、国・県はダムはいったん白紙に戻し、五木村の振興を責任をもって果たすべきである
75	貯留型川辺川ダム建設	多目的ダム法の計画は五木	今後検討する		

	事業の基本計画について	村の了解なしに進めないと の考えはそのままか			
75	流水型ダムによる湛水の影響について	流水型ダムにより水没予定地にどのような被害・影響が出るか示すべき	五木源パークはシミュレーションでは15年に1回湛水。	考え方は左記の通り。	ダムによらない地域振興を目指してきた五木村に対して、極めて無責任。これまで川辺川ダム計画で五木村を翻弄してきた反省の上に立ち、国・県はダムはいったん白紙に戻し、五木村の振興を責任をもって果たすべきである
76	ダムによる発電について	発電機能を持たせるべき	流水型ダムに発電機能を持たせることは困難	左記の考え方を整備計画に記載	
76	熊本県知事の表明について	知事がダムに舵を切ったのは拙速では	住民らの意見を聞き、命と清流を守るために流水型ダムを国に求めた	意見を整備計画に追加する	流水型ダムで清流が守られることなど証明されていない。
77	流水型ダムの建設実績について	環境負荷が大きく建設実績がなく効果が実証されていない	国内外での実績は数多く存在する	環境への影響の最小化を目指す。必要な対策を講じ、環境保全を図る（供用前）	国内での建設実績は多くない。球磨川・川辺川を流水型ダムの実験場にすべきでない。
77	整備計画本文の記載内	「流水型ダム」の文言を	整備計画原案では「流	左記のとおり整備	

	容について (流水型ダム)	「治水を主体 としたダム」 に変更	水型ダム」 としている	計画に記 載	
--	------------------	-------------------------	----------------	-----------	--

賛同団体一覧

7・4 球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会 共同代表 鳥飼 香代子 市花 保
坂本町被災者・支援者の会 代表 本田 進
清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 岐部 明廣
美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃
瀬戸石ダムを撤去する会 共同代表 出水 晃 上村 雄一 本田 進

球磨川水系の河川整備計画原案に対するパブリックコメントについて独自の分析結果を公表する市民団体の南由穂美さん(右)ら

15日、県庁



2020年7月の熊本豪雨で氾濫した球磨川の治水対策で、国土交通省が支流の川辺川で建設を目指す流水型ダムに反対する市民団体「子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会」は15日、球磨川水系の河川整備計

2022.7.16 熊本日日新聞

流水型ダム「反対」7割

市民団体 意見公募を独自分析

球磨川治水

画原案に対するパブリックコメント(意見公募)について、独自の分析結果を公表した。意見の7割強が「ダム反対」だったと集計している。

国交省と県は4～5月、河川法に基づき住民から意見を公募し、ウェブサイトで内容を公表している。県民の会は国交省と県に重複して寄せられた意見を除く439件を分析した。

分析によると、ダム反対は313件(71.3%)で、賛成の21件(4.8%)を大きく上回った。残る105件はダムへの賛否に言及がないか不明だった。集計には、同じ球磨川水系の瀬戸石ダムや五木ダムへの意見も含めた。

反対意見を地域別にみると、人吉市

が最多で135件。八代市が32件、相良村が21件と続き、球磨川流域で約3分の2を占めた。反対理由は、環境への悪影響の懸念が最も多く、治水効果への疑問や緊急放流の危険性の指摘も目立った。

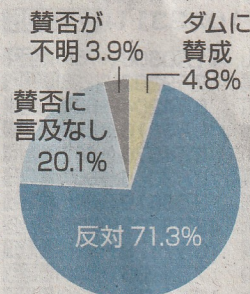
県庁で記者会見を開いた県民の会の南由穂美さん(70)「八代市」は「流水型ダムについて、これだけ多くの反対意見がある。国や県は正面から疑問に答えてほしい」と訴えた。

独自分析について、県河川課は「パブリックコメントなどは住民の意見を聞くのが目的で、多数決の性格はない。計画を作り直す予定はない」と話した。国交省と県は1日、河川整備計画案を公表している。

(臼杵大介)

熊本豪雨
2年

意見公募の分析結果



熊本豪雨

仮設の入居状況	建設型	541戸
	仮設住宅	(1246人)
	借り上げ型	522戸
	みなし仮設	(1134人)
仮設の入居状況	公営住宅	132戸
	など	(238人)

球磨川水系河川整備計画原案に関して提出された意見の集計結果

		bに占める賛否等の比率	
総意見数(a)	455		
aから全く同じ意見を除いた意見数(b)	439		
ダム反対の意見数(c)	313	71.30%	瀬戸石ダムを撤去すべきも含む 五木ダム建設賛成も含む
ダム賛成の意見数(d)	21	4.78%	
ダム賛否に言及なしの意見数(e)	88	20.05%	
ダム賛否が不明の意見数(f)	17	3.87%	

ダム反対の意見の地域別内訳

人吉市	135	
その他県内	50	熊本市39,水俣市4,玉名市2,山鹿市2,大津町1,上天草市1,不明1
九州外	36	千葉県5,神奈川県4,東京都3,北海道3,滋賀県3,大阪府3,兵庫県2,高知県2,群馬県2,岐阜県2,京都府2,栃木県1,山形県1,愛知県1,埼玉県1,長野県1
八代市	32	
相良村	21	
その他九州	16	福岡県9,宮崎県3,大分県2,佐賀県1,長崎県1
不明	8	
多良木町	5	
あさぎり町	3	
山江村	3	
球磨村	1	
錦町	1	
水上村	1	
湯前町	1	

ダム賛成の意見の地域別内訳

五木村	9	
八代市	4	
その他九州	3	福岡県3
その他県内	2	熊本市2
球磨村	2	
不明	1	

ダム反対の意見の年齢別内訳

10代以下	5
30代	25
40代	45

50代	56
60代	32
70代	131
80代以上	17
不明	2

ダム賛成の意見の年齢別内訳

30代	1
40代	2
50代	2
60代	10
70代	4
80代以上	2

主な反対意見概要

環境への影響,ダムの治水効果はない,緊急放流の危険性,住民参加,ダム以外の治水,ダムは危険,豪雨災害の検証をすべき,ダムの治水効果は限定的,ダムは撤去すべき,山林対策をすべき,水質悪化の懸念など

主な賛成意見概要

ダムの治水効果はある,ダム代替案の治水効果はない,工期が短い,脱炭素に役立つ,地域資源になる,流域住民の安心のためなど